

愛媛支部

えひめ国体・えひめ大会

待ちに待った「えひめ国体」「えひめ大会」が、9月～10月に開催されました。会場は、選手、応援、スタッフ、ボランティアなど、たくさんの人たちの笑顔でいっぱいでした。

ひめ通研の会員も、さまざまな形で大会に参加しました。開会式・閉会式の手話ダンス、各会場での情報支援、その他のボランティアなど、それぞれ自分のできる活動で大会を盛り上げました。台風が接近して日程が変更になったり、予想外のことが起きたりもしましたが、協力しあってなんとか切り抜けることができました。

また、この大会をきっかけに、聴覚に障害がある人とのコミュニケーションに関心をもってくれた方もたくさんいました。「こんなときはどうやって伝えたらいいの?」「手話はどこでも共通?」など、応援やスタッフの方々から質問されたこともありました。私たちにとっても、聴覚以外の障害のある方と交流し、理解を深めるよい機会となりました。

ここで得たものを大切にしていって、さらに大きく育てていきたいと思えます。



香・通・研 なるほど講座 開催

香川支部

香川では、毎年恒例の「なるほど講座」を12月3日(日)に開催しました。午前中は、健康対策班による「ゆっくり、じっくり、ストレッチ」と題して音楽に癒されながらのストレッチをしました。寒さの中、固くなっている身体は徐々にほぐれて心まで癒されました。医療班の「スッキリ、ハッキリ、脳活ゲーム」ではでは脳トシで①バラバラ文字から単語の組み立て②イラストを見て料理を作る③絵を見て答える記憶力④左手・右手を同時に使って線をなぞる、まると四角のグルグル渦を描く⑤コグニクシヨ(認知)とエクササイズ(運動)⑥誰が+(やった)状態を身体で表現・とたくさんのゲームをしました。

午後からは全通研理事の小山さんに「読み取る力を高めるために～手話この魅力あることばかり～」と題して講演をしていただきました。グループに分かれて、才原和宏さんのDVDの読み取りをしました。なぜこの手話を使ったか? 手話が持つ意味は何か? ひとつひとつ確認し合いながら進めていきました。今まで何回も、講座や学習会で繰り返し教わってきましたが、再確認するような内容でした。



あさいと 誌

とさ通研 秋の大学習会

並木の銀杏がアスファルトを黄色に覆う晩秋11月26日、とさ通研では秋の大学習会を開催しました。講師に全通研研究部長の岡野美也子氏をお迎えしました。

午前の部は『元気に活動するには』。岡野氏の手話を始めたきっかけやサークルでの活動、一生懸命さ故に発症してしまった頰肩腕障害。治療のかたわらそれでも続けた手話のこと、仲間のこと、家族のこと、そして今…できない自分を認めたことで生きることが楽になったという。



午後の部は「多くの仲間を増やすには」～通研と手話サークルの役割～。みんなで学んで個人に力をつけるのが通研。みんなで動いて地域に力をつけるのがサークル。どちらも大切にピタッとする関係がいい。いろいろな力を集結すると大きな力になる。これが社会を変えていく力になる!と心強い言葉。岡野氏の体験に基づく本音トークは、参加者に共感と気づき、思考を起こさせました。何事にも一生懸命に向き合う姿勢と繊細な心が伝わり親しみが持てる学習会となりました。

高知支部

第15回手話Caféゆびっち®と統一試験直前講座



11月26日(日)午前に「手話Caféゆびっち®」を開催しました。久々の日曜開催で、健聴親子の参加もあり、楽しいひと時を過ごしました。もうすぐ近づくクリスマス。“サンタ苦勞ス”の気持ちになって会話をしてもらいました。また、ろう者からはサンタクロースはどこの人?世界地図に詳しい参加者が地図を板書。近隣の国々が次々に出され、手話でどう表現するの?とワイワイ話しながら、最後には徳島県の市町村の確認へと発展しました。ついでに手話言語条例や知事の会、市区長会の話をすることもできました。



午後からは、12月2日に迫る「全国統一試験」の直前講座を開催しました。西組織では9月3日と11月3日、東組織は10月27日、中央では11月4日と開催してきて、今回が最後の講座。試験問題を考えるのも大変でしたが、受講者の試験合格への意欲に対して少しでも応援できるよう開催できたのは良かったと思いました。

徳島支部

*この機関紙の著作権等知的財産権は四国手話通訳問題研究会及び各支部に所属し、掲載している文章及び画像を無断で再利用することを禁じます。